

テレワークの種類	在宅勤務	モバイルワーク	サテライトオフィス	狙い	生産性向上	移動時間短縮	非常時の事業継続	顧客満足度向上	WLB向上	オフィス費用削減	通勤弱者対応	創造性向上	優秀な人材確保	省エネ・CO2対策
	○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○	

企業の概要

社名	株式会社シーエーシー	都道府県	東京都
業種	システムインテグレーター	従業員数	1,093名
事業概要	情報システムの構築・運用などのITサービス、および人事給与業務などのアウトソーシングサービスの提供		

テレワーク実施概要

雇用上の規定	在宅勤務は「在宅勤務実施要領」にて規程。
テレワーク推進担当部門	経営企画部
テレワーク対象者	全社員(モバイルワーク)、在宅勤務(約3割)
実施者数	在宅勤務:1割強
実施日数	日数制限はないが実態としては週平均で1-2日となっている。

テレワークの導入・拡大の経緯

モバイルワークは2000年頃より開始し、2000年代前半には全社員が利用可能となっている。ノートPCを利用した仕事を行うためにルール化し、主にセキュリティに関する対策と確認を行っている。

在宅勤務は知識集約型企业に向けた事業改革の一環として開始した。2011年より検討を開始し、2012年から順次営業部門および本社管理部門にて展開した。当初は内規にて実施し、2014年に規程を変更し、正式ルール化した。

テレワークの概要・特徴

モバイルワークについては、機器登録・持出のルールと共に設定し、2000年代前半から全社員で実施してきた。2005年前後からは全社員にVPNを利用できる仕組みを提供し、自宅・持出PCから事務作業を行うなどしている。さらに、中期経営計画の柱の1つとして、労働集約型企业から知識集約型企业への変貌を掲げている。知識集約型企业としてIT基盤刷新とWS変革を掲げ、2011年から経営者のトップダウンでの変革を行ってきた。

主な特徴は3点である。

1. トップダウンで実施したことで、2011年夏から2012年末で主なテレワーク施策について一気に導入が出来たこと
2. IT企業であるため、先進的なITの導入などIT改革を同時に実施することでワークスタイル変革の不便さを減らし、効果を最大限発揮できた。
3. 対象者を育児等の特別な理由に限定しない

原則、対象部門においては理由を問わないものとした。導入前に他社の情報などを聞いたことで、育児介護などの理由で導入する場合には評価が不公平になるなど、テレワーク活用に関する弊害が想定されたため。

テレワーク導入の効果(経営にもたらした効果、その他効果)

◇営業部門での成果・効果

時間にとらわれずに、直行直帰を行いながら仕事ができる環境となったため、顧客に充てる時間を増やすことが出来ている。事務作業なども多いため、在宅勤務なども活用することで体力の温存にも貢献している。

◇本社管理部門での成果・効果

本社管理部門では、子供の病気の場合に朝、病院に行ってから午後だけ在宅勤務を実施するなど、個々人のワークスタイルに合った在宅勤務を実施している。特別な場合以外にも在宅勤務を日常的なこととすることで、通勤時間の短縮によるワークライフバランスの向上に寄与している。

■その他の効果

◇フリーアドレス/在宅勤務

テレワークによりフリーアドレス化が可能となり、1フロアをフリーアドレス化することで、余ったスペースを会議室やプロジェクトルーム等に流用する事で追加コストを抑制出来た。

◇ユニファイドコミュニケーション/TV会議システム

プレゼンス情報を活用したコミュニケーションにより生産性が向上し、さらに国内外への移動不要による交通費削減や移動時間短縮によるコスト削減に効果が出ている。

◇仮想デスクトップ

テレワークのためのセキュリティ対策として実施したが、PC購入費やPCメンテナンス費用の削減に寄与している